

第十七回 忠順大賞

(令和四年度)

ピタッとポーズ銅像みたい

会長賞 銅賞

堤小五年 日橋 星姫

冬休み窓の外には雪がふり

何もしないで窓にはり付く

※運動会の一大イベントの一つで、キャンプ宿泊研修でよく行われる技でもありますね。大歓声うれしい。母の一言はもつと胸に響いた。

入賞作品

中日新聞社賞

・応募総数 一三九八首
・久米翠雲先生 選評

堤小一年 三和 千咲

いとがはるピンとのびて 手がいたい

わたしとたこでつなひきみたい

※広場かな。北風に乗って、たこ糸がピンとはる。しんけんわたしとたこのつなひきだ。手がいたい。でもたのしい。

優秀賞 (三名)

駒場小四年 矢田 凜子

家族への感謝の気持ち書く宿題

いっぱいあって書き切れないよ

中学・一般の部

豊田市長賞

前林中二年 鈴木 花音

夏祭りカランカランと下駄の音

手には焼きそば空には花火

※昔懐かしい祭り風景。下駄の音が聞こえるようです。下の句がいいですね。絵になる風景。

豊田市議会議長賞

前林中三年 浜崎 大輝

何事も慣れてしまえば日常か

マスク越しでも全力笑顔

※上の句は一面では怖いですが。マスクなしが非日常。救われるのは下の句の和を保為の努力する作者、すごいね。

年度)

小学生の部

豊田市長賞

堤小六年 古賀 清敬

白いゆげ白い息吐き きね下す

皆みんな)でついたもちつきりレー

※庭に石うすを置く。家族で役割を決めもちつきをする。つく人が大変、順番に。温かい師走の風景。

豊田市議会議長賞

堤小六年 横川 千暁

弟と仲よく上げるたこ二つ

空の上ではけんかのよう

※仲よし兄弟のたこあげ。仲良くしていた、たこが空でもつれる。「なかよし」と「けんか」が面白い。畑かな、広場かな？

豊田市教育委員会賞

堤小三年 加藤 虎太郎

お正月消防出初かんえつ式

お正月消防出初かんえつ式

お正月消防出初かんえつ式

お正月消防出初かんえつ式

お正月消防出初かんえつ式

お正月消防出初かんえつ式

お正月消防出初かんえつ式

お正月消防出初かんえつ式

ピタッとポーズ銅像みたい

ピタッとポーズ銅像みたい

※消防士さんの動きはキビキビとしている。ピタッとポーズが決まり、放水開始。第五句目で決まりだね。

ピタッとポーズ銅像みたい

ピタッとポーズ銅像みたい

ピタッとポーズ銅像みたい

ピタッとポーズ銅像みたい

ピタッとポーズ銅像みたい

ピタッとポーズ銅像みたい

ピタッとポーズ銅像みたい

ピタッとポーズ銅像みたい

ピタッとポーズ銅像みたい

ピタッとポーズ銅像みたい

ピタッとポーズ銅像みたい

ピタッとポーズ銅像みたい

ピタッとポーズ銅像みたい

ピタッとポーズ銅像みたい

ピタッとポーズ銅像みたい

ピタッとポーズ銅像みたい

ピタッとポーズ銅像みたい

ピタッとポーズ銅像みたい

ピタッとポーズ銅像みたい

ピタッとポーズ銅像みたい

ピタッとポーズ銅像みたい

ピタッとポーズ銅像みたい

ピタッとポーズ銅像みたい

ピタッとポーズ銅像みたい

ピタッとポーズ銅像みたい

ピタッとポーズ銅像みたい

ピタッとポーズ銅像みたい

ピタッとポーズ銅像みたい

豊田市教育委員会賞

前林中二年 國料 咲翔

夏の夜間夜に咲く可憐な華

今宵の魔法線香花火

※ファンタジーな雰囲気作品。線香花

火の美しさ、可憐さをこのような目で

見られる、素晴らしい。

中日新聞社賞

刈谷市 長嶋 秀雄

草刈る見通しの良き土手の道

歩めばかえる十四の冬に

※土手の道の草刈り後の風景は懐かしい。

周囲の景色が変わっても、目の前の風

景は、直ぐに通いなれた中学生に戻

す。思い出の道。

会長賞 金賞

前林中二年 滝澤 芽依

一人だけ持ってきていたホッカイロ

順にまわして皆あたたまる

※寒い朝、ホッカイロを持参しての登校。

寒さが厳しくなった。友達にまわして

暖をとる。優しく素晴らしい心です。

会長賞 銀賞

前林中一年 石田 峻毅

両親に正直になれず空言(そらごと)を

心の空は晴れのち曇り

※何か照れくさい。僕は子供じゃないぞ。

そんな思いが心を占める。しかし、…

毎日が空模様と同じ。下の句がいい。

心の揺れがよく分かる。

会長賞 銅賞

前林中三年 今枝 あい

コロナ禍で校歌歌わずもう三年

ついに来たのは

ボデイパーカッション

※三年間も校歌は聞くだけ。残念。そし

て先生方が知恵を絞って、今年にはボデ

イパーカッション。心に残るよ!!

優秀賞 (三名)

前林中三年 澁谷 祐

駆け足の逃げる夕陽に行軍の

黒い雲らに雷雨の兆し

※前半の「駆け足の逃げる」ユニークで面

白い。空をよく観察していなければ分

からない様子をうまく詠んでいるのが

いい。

前林中一年 松本 都

夕暮れの赤く染まった公園に

小さな遊具大きな私

※近所の公園。幼い頃親に連れられてよ

く来た。久しぶりに公園で見た遊具が小

さく見える。下の句で巧みに自分が大

きくなったことが表現されている。

前林中一年 成瀬 心花

お父さん塾のお迎え来てくれる

あつたかいな帰りの会話

※スポーツ、芸能、学習？などの塾。寒

い夜は迎えの車がうれしい。父の言葉も

温かい。感謝、感謝。素直な読みっぷり

がいい。

※無審査

「市長賞」授賞歴のある二名の優れた

作品を無審査としました。

高岡町 早川寛子

大土手(おおどて)の夜露にぬれし

花花の

光りて美(うま)し雑草と言(う)も

※早朝の大土手の景。露をたつぷり含ん

で光輝いている。雑草と言われる花花。

思わず見惚れてしまう。「花花」とせず、

「花花」としたところで、花の一本一本を

よく観ている。

駒場町 清水 宣子

太き枝一本枯らし老木は

夏をしのいで生きる選択

※擬人法を使つての詠み。深い味わいが

ある。それはまた、人の生き方にも通

じるものでもある。枝を枯らして生き

る。凄い生命力。短歌の流れもいい。

第十七回「忠順大賞」に千三百九十
八首の作品をいただきました。

久米翠雲先生による最終審査で二十

名の入選者が決定し、先生には選評も

添えていただきました。「忠順大賞募集

に伴って開催しています「短歌づくり教

室」の参加者からの投稿も増え、入選者

もおられます。ありがとうございます。

長く続くコロナ禍の中で、友達とのこ

と、家庭内の風景など日常生活の小さ

な喜びを、三十一文字で表現された作

品の数々。心温まる人と人との繋がりが

伝わってくる短歌がとても多かつたよう

に思います。

お忙しい中、指導・協力していただき

います小・中学校の先生方には感謝しか

ありません。ありがとうございます。ま

た、地域内外から応募していただいた大

勢のかたに感謝致します。

(事務局 川村